

企業のシンプル化と効率化

令和5年12月22日

黒田インターナショナルコンサルティング

黒田 毅

アメリカ企業のシンプル化と機能性の製品における要求という現実、現状のIT化という現実とともに、新しいスタンスを構築するものである。これらは彼らの社会システムにおいて等しい。またIoTにおける社会転換は彼らが新しい現実を有したことを意味するものである。これらに伴いビジネスにおける新しい自己基準は彼らが次世代社会への転換を明確に有することを意味する。

これらは日本企業が古い慣習を守ることと対比されるものである。これらは企業改革が既存現実を離れ未来への転換を要求することを意味する。

これらシンプル化は、効率的なシステム構築とともに、高い利益性への転換を実現できるのである。また自動生産システムというインダストリー4.0という現実、一つの企業のシステムにおける経営という完成を有するのである。

これらが開発基盤を有し、一つの企業サイクルの構築を完了することは、企業が一つの自己完結する組織としての自立と独立を得るものである。

これらは企業のプレゼンスとコアコンピタンスが、自由貿易システムというルールとともに、グローバル基準をクリアし、その参加を可能とするものである。

これらは創造性という選択と次世代技術への転換において、初めて時代への到達を得るのである。

これらはすでに既存の新しいグローバル基準であり、不可避の選択なのである。

これら新しい企業基準への転換は唯一競争におけるビジネス社会において、生き残りの正しい選択なのである。